

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	物理・化学薬学特別演習 I		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(薬品物理化学) 構造生物学 (薬品化学) 創薬化学 (生薬・天然物化学) 天然有機化合物		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬		
授業の概要	天然に存在するタンパク質、ペプチド、天然有機化合物が有する機能を理解するために、最新の研究を踏まえた討論を教員と共に行うことにより、問題解決能力を高める。		
到達目標	<p>(薬品物理化学) 構造生物学に関する研究内容を理解し、考察できる。</p> <p>(薬品化学) 創薬化学に関する研究の方法を理解・説明するとともに問題解決能力を修得する。</p> <p>(生薬・天然物化学) 医薬品として用いられる天然有機化合物の基原、構造および構造解析、作用などに関する知識及びスキルを修得し説明できる。</p>		
授業計画	<p>(薬品物理化学) 生体高分子の機能解明に必要な構造生物学的研究の討論と解説を行う。(中津 亨/入江克雅)</p> <p>(薬品化学) 有機化学を利用した生体分子(主にペプチド・タンパク質)の変換手法の創出に関して議論を行う。(相馬洋平/佐々木大輔/澤崎 鷹)</p> <p>(生薬・天然物化学) 研究テーマに関する著書や論文を読み、専門的知識及び研究手法を理解し、天然有機化合物を扱うための技術を学ぶ。また、医薬品の礎となった天然有機化合物の基原、化学構造、生物活性メカニズム及びその解析について理解し、その応用を修得する。(田村 理/田中千晶)</p>		
授業の方法・形態	演習を中心とする。		
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。		
成績評価の基準	研究への取組100%(討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など)によりS(90点以上)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。		

授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。